

ここにちは、芸西病院に再び着任し早3年が経過しました。今回は医療におけるデジタル化が業務の効率化に寄与するのについてお話ししたいと思います。

少子高齢化に伴い、医療従事者の不足・長時間労働が深刻な課題となる中、医療業務のデジタル化（医療DX）は、現在、最優先の改革課題です。電子カルテの普及、AI問診や画像診断支援、オンライン診療、自動精算機などの導入は、一見すると劇的な業務効率化を約束するようにみえます。しかし、現場の視点に立つと、「デジタル化＝即座の



『医療業務のデジタル化は真の業務効率化をもたらすか』

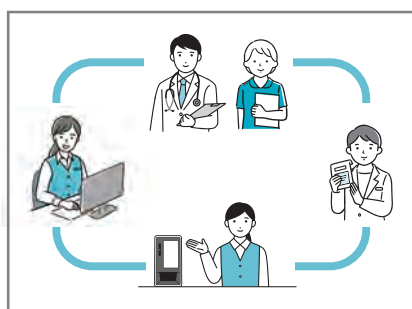
副院長（精神科医師） 大畑 貴裕

効率化」という単純な構図には収まりません。医療業務のデジタル化が効率化につながるかは、導入する機器の性能だけでなく、「既存業務のやり方を再設計し、それをいかに現場に定着させるか」に大きく依存します。

デジタル化がもたらす最大の価値は、「情報の共有速度の向上」と「手作業・定型業務の削減」にあります。現在、当院では、紙のカルテや伝票に依存し、情報の検索や代行入力、部署間での電話連絡などに多くの時間が費やされています。それが電子カルテや院内ネットワークの整備により、診察・検査・処方などの情報が一元化され、職種を超えた即時共有が可能となります。仮に患者さん自身がタブレットで事前に回答するAI問診が可能となれば、相談員

や医師の聞き取り・入力時間を大幅に短縮できます。さらに、レセプトチェックの自動化やAIによる画像診断補助は、ヒューマンエラーの低減と時間短縮の両立が期待できます。

一方で、「デジタル化によってかえって業務が増えた」という現場の悲鳴があるのも事実です。その原因の一つが、システム間の相互運用性の低さです。病院ごとに異なるシステムが導入されているため、他院からの紹介状や外部の検査データを手入力で移し替える手間の発生や、複雑な操作画面による負担です。また、デジタル化に慣れないスタッフへの教育コストや、システム障害時のリスク管理なども無視できません。道具が変わっても従来の紙運用をそのまま画面上に再現しようとすれば入力項目が増え、か



えって手間が増加する本末転倒な事態が容易に生じます。

当院では業務効率化へと結びつけるため電子カルテの導入を進めています。単なるツールの置き換えにとどまらない取り組みが不可欠で、導入を機に「既存の無駄な手順」を削り日常業務の刷新が鍵になると考えています。単に作業時間を短縮するだけでなく、医療従事者が書類仕事から解放され、患者と向き合う「本来の医療行為」に集中で



2026年5月 北海道 鶴川にて（ニジマス）

きる環境（真の業務効率化）を整えられるよう、邁進してまいります。

外来診察担当医

令和8年4月1日

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	山崎 (第1)	岩崎 (第3)	山崎	清藤 (第1・3)	山崎	八木	八木	山崎	山崎		麻生	休診
	八木 (第2・4・5)	八木 (第2・4・5)										
精神科	大崎	赤川	大畑	藤戸良輔	大崎	高木	正木	交代制	交代制	交代制	交代制	休診

芸西病院



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887(33)3833

発行責任者
山崎 一明
<http://okura-kai.com/geisei/>



グループホームの夏祭り

8月29日に「グループホームげいせい・夏祭り」を開催しました。



所長の挨拶を皮切りに、まずは懐かしい正調よさこい鳴子踊り！利用者さん達は鳴子踊りの音楽に合わせて、鳴子やカスタネットで思い思いに楽しそうにリズムをとっていました。

鳴子踊りで体をほぐした後は、職員考案の「ヒッパレー」に挑戦。このヒッパレーは、中身の見えないカゴから伸び出ている紐を引っ張ると、紐の先についたプレゼントをゲットできるゲームです。利用者さんは職員と一緒に「どれがえいるー？」と考えながら紐を引っ張り、次々とプレゼントを手になされていました。

ヒッパレーのお次は、夏祭りの最大イベント「パン食い競争」でした。いざやってみると難しく、パンをなかなか口にくわえることができずに悪戦苦闘。その様子を見ているような笑いが沸き、普段は見られないような利用者さんのはじける笑顔が印象的でした。

パン食い競争で笑いすぎ、ちよつと疲れた所でおやつタイム。今回のおやつは夏祭りらしく、職員が利用者さんの目の前で作る、特製いちご

介護福祉士 藤田 直登

かき氷でした。冷たいかき氷とパン食い競争でゲットしたパン、たこ焼き、ジュースも「おいしいー」とみなさん完食されていました。

今回、初めて夏祭りに参加させていただきましたが、利用者さんの笑顔を見ると自分も元気をもらえます。また来年も楽しんでもらえるような夏祭りを企画したいと思います。



デイケアの夏祭りが開催されました！



医療相談室 公認心理師 松澤 咲穂

今年は8月25日（火）に「デイケアの夏祭り」が開催されました。4月に入職し、病院の行事ってどんな感じだろうと、参加させてもらえることになってからずっとワクワクしていました。

当日は、ガラガラ抽選・魚釣り、今川焼・お好み焼きなどが出店されました。ガラガラ抽選では、下位賞を利用者さんが「チックショー（賞）」と名付け、当たると一緒に「チックショー!!」と悔しがってくれます。センスが一番輝いている賞で、この声が聞こえてくると思わず一緒に悔しがるポーズをとっていました。

魚釣りゲームでは、「レッツ！フィッシング！」という盛り上がる掛け声でゲームが始まり、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごすことができました。

お好み焼きでは「すぐそこ海の鯉節だから美味しいよー」と思わず買いたくなる声掛けがあり、いつもの何倍も美味しく感じました。

私は、お茶とアイスのコーナーを担当し、利用者さんは「お茶とアイスをどうぞー」と声掛けして提供してくださいました。みなさんの楽しそうな表情を見て、一緒に顔を見合わせて笑顔になったことが

とても素敵な思い出です。

コーナー決めや買い出し、飾りつけに運営。これらは全て利用者さんが主体となって行われ、楽しい時間の後ろには、沢山の工夫や努力があることを実感しました。笑顔で楽しい時間を提供してくださった利用者さん方、本当にお疲れさまでした！



お祭り気分！

2B病棟に笑顔と感動が あふれました！

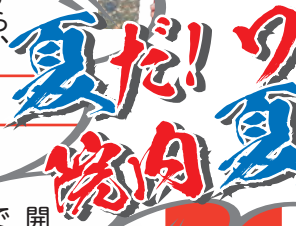


看護師 小松 優成

今年も病棟の中央ホールにて、待ちに待った夏祭りを開催しました！入院中の患者さんたちに季節の行事を楽しんでいただこうと、スタッフ一同、心を込めて準備を進めてきました。

お祭りは、威勢の良い鳴子の響きとともに始まった「よさこい踊り」で幕を開けました。スペシャルゲスト「いちぜん」の踊り子さんを先頭に、赤いハッピを身にまとった職員や患者さんが鳴子を元氣いっぱいに鳴らしながらの乱舞で、ホール全体が一気に華やかなお祭りムードに包まれました。

続いて、高知の某人気番組を模った「歌って笑ってキャラバンの開催。ステージに立った3名の患者さんが「王将」「兄弟船」「瀬戸の花嫁」の名曲をとても上手に、元気に披露してくださいました。歌唱後はプレゼントが贈られ、皆様満面の笑みを浮かべて喜ばれていました。さらに、おくら会四弦楽団の皆様によるウクレレ演奏が始まるとその優しい音色に聴き入り、患者さんたちは懐かしいメロディに涙を流したり、一緒に口ずさんだりと、それぞれの心に深く響くひとときとなりました。最後のお楽しみは、できたて



3B夏祭り

看護師 松吉 慎一郎

先日、3B病棟で夏祭りが開催されました。私は初の参加で、準備からお手伝いをさせていただきました。

企画内容は盛り沢山で、最初に行われた「正調よさこい」と「ゆいゆい」では、患者様と職員と一緒に鳴子を持ち、デイルームいっぱいには和氣あいの雰囲気広がっていました。次に行った「イントロクイズ」は「私は誰でしょうクイズ」では、ステージに上がった参加者だけでなく、皆さんも頭を悩ませ真剣に取り組みしていました。イントロを聴いて曲は知っているのに早押し時の緊張感で曲名が思い浮かばないという場面が多くあり、四苦八苦しながら挑戦されていたのが印象に残っています。

そして、景品争奪ジャンケン大会では、僭越ながら私がステージに立ち、皆さんとジャンケンをさせていただきますました。とんとん拍子で進むと思っていきましたが、最後には患者様同士の一騎打ちまでもつれ込み、大きな盛り上がりとなりました。全ての企画が終わった後は、皆さんが楽しみにされていた「たこ焼きやアイスを提供し、終始和やかな空気のまま夏祭りを終えることができました。私自身、おぼつかない部分も多々



永年勤続表彰をいただいて思うこと

医療相談室 ソーシャルワーカー 栗坂 晋治

令和8年7月24日に勤続30年表彰をいただき、大変うれしく思います。30年勤続者4名と一緒に表彰していただけたことも、共に切磋琢磨してきた者としてとてもうれしかったです。



平成8年の3月に地元岡山の大学の卒業式を終え、就職が決まっていた私、大学の就職課でたま芸西病院の求人を見つけ、4月16日から一度も来たことのなかった高知県の芸西病院で働くこととなりました。一人暮らしも初めてで不安も大きかったのですが、当時の上司のご厚意で初出勤予定の2日前に開催された互助会主催の春の懇親会に参加させていただきました。皆さん優しく声をかけてくださり、楽しく宴会ゲームに参加させてもらったり、高知のお酒の飲み方を教えていただいたり、多くの職員の方の顔と名前を知ることができ、カラオケ好きの私は2次会のカラオケにまで一緒にさせてもらい、皆さんの温かさを感じ、

何とかやっていけそうと思ったのを今でも鮮明に覚えています。

それから30年、多くの素敵な出会いや悲しい別れがあり思い起こすと感慨深く思います。30年もの長い間、同じ職場で仕事を続けてこられたのも、歴代理事長、院長、医療福祉部のメンバーをはじめ、今まで未熟な私を助けてくださった職場の方々や関わっていただいた地域の医療福祉関係者、患者さんやご家族の皆様のおかげだと思えます。心より感謝申し上げます。これからも人との出会いや繋がりを大切にしながら、芸西病院で楽しく仕事を続けていけたらと思います。今後ともよろしくお祈りします。



第2回科学的農福連携シンポジウムに参加して

リハビリテーション部長 加賀野井 聖二

7月31日(金) 安芸市防災センターにて「第2回科学的農福連携シンポジウム」が「就労定着を目的とした受け入れ者支援」をテーマに開催されました。農福連携では、就労につながった方の定着率が約50%と言われており、就労後に離職してしまうケースも少なくありません。その一方で、受け入れ農家も離職に伴う戸惑いやストレスを抱えていることから、当事者への支援だけでなく受け入れ者への支援も重要であり、それが結果として就労定着につながるのではないかとという視点から、科学的な改善策について議論が行われました。

名による討論が行われ、受け入れ農家、JAコーディネーター、今後の受け入れを検討する若手農家など、それぞれの立場から率直な意見が述べられました。特に若手農家から出された「受け入れたい気持ちはあるが、経済的な不安もあり今は難しい。それでも可能な範囲で関わりたい。」という言葉が印象に残りました。

特別講演では、ATR(国際電気通信基礎技術研究所)の浅井智久先生より、最新の脳研究をもとに、支援者支援につながる可能性について講演がありました。基礎研究の段階ではあるものの、脳活動への介入によって最終的に行動変容を促す研究(例えば5分程度しか集中できなかった作業を20分程度継続できるようにすることを目指すなど)は大変興味深いものでした。その後、浅井先生を含むシンポジスト4名と助言者2



ぽっぷ STEP 精神デイ!



精神デイケア 作業療法士
田野岡 宏樹

～「炒飯王は俺だ」職員利用者対抗料理対決～

とある日、何気ない会話のなかで利用者さんの言った「僕、炒飯作るの得意です」に「じゃあ、炒飯勝負しましょうよ」と反応してしまった田野岡。私は料理が得意ではありませんが、炒飯を作った時だけは妻から「店の味」と褒められ自信があったのです。そんな流れで炒飯王を決める戦いが始まりました。(毎回、私の思いつきにつき合ってくれる利用者さんありがとう)



料理対決 1回戦



ルールは至ってシンプル。同じ食材で、味付けのみアレンジを加え審査員(利用者さんと職員)に食べてもらい勝敗を決めます。※公平を期すため、審査員に作る工程は見せません。

いざ調理開始。いい匂いがデイケア中に漂います。時間内に盛り付けし実食。「味はこっちのほうが好き」

「パラパラ感があるのはこっちや」と審査員のジャッジが入ります。初代炒飯王の称号を得たのは・・・利用者さん！ガツクリ肩を落とす敗者田野岡に「シーチキン炒飯やったら私、勝てるで」と新たな挑戦状が差し出されました。ん？勝った人に挑戦するのでは？と思いつつもリベンジの為、挑戦を受けることに。

普段、大人数の料理を作る事がない為に苦戦されたとは思いますが、挑戦してくれた2名の利用者さん共に「味がしみ込むには・シーチキンの風味を残すには」と調理工程に工夫がなされていました。経験のないことに挑戦してくれた事が嬉しかったです。2回戦目勝ってしまってゴメンなさい、でもしばらく、2代目炒飯王の余韻に浸りたいと思います(笑)



料理対決 2回戦

コロナも落ち着いたのでよさこいに復帰して「おきやく屋」というチームに参加しています。鳴子が徳利の形だったり、曲や振り付けもお酒や乾杯といったものが多く、まさに「高知のおきやく(宴会)」に因んだチームです。練習も楽しくて、皆勤賞を目指した私は、祭り本番までは釣りを



私の趣味に「釣り」が仲間入りしました。きつかけはもうひとつの趣味「よさこい」がコロナ禍で中止となり、では釣りをしてみないかと声を掛けられたからです。餌を使わない金属製のルアーを使ったジギングという釣りが好きで、大物(写真はイシナギ)を釣った時の高揚感がたまりません。

リレーエッセイ No.86

「今、やりたいことを全部！」

岡本 牧子
薬局助手



お休みしようと思いましたがやはりどうしても釣りがしたくて「朝4時集合で8時過ぎまで釣り、10時から13時までよさこい練習」という1日を過ごしました。が、すっかり疲れたため来年の夏はよさこいに集中しよう心に誓いました。年々気温が上昇する中での練習は大変でしたが、今年の本番は少し気温も下がり踊りやすかったです。現地で応援していただいたり、テレビで見たよと言ってくれた友人や職場の方々の声が励みになり、踊りきることができて充実した夏となりました。まだまだイベント出場もあり週末は忙しいですが、練習が無い分、目標である自己ベスト「30kg以上の魚」を求め釣行予定も立て始めています。体力がある、動ける限りはこの趣味を満喫していきたいです。

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人々とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

モルック始めました

通所リハビリ 介護福祉士

宇田 由紀

やわらぎ通所リハビリで、7月より「モルック」をレクリエーションとして開始しました。モルックは木製の棒を投げ、数字の書かれたピンを倒して得点を競うゲームです。

準備段階で「ご利用者の皆様に受け入れられるのか」という不安もありましたが、実際に始めてみると想像以上の盛り上がりでした。最初は「うまく投げられるかな」と心配されるご利用者もいらっしやいました。最初はコツをつかむのが難しく、ピンを倒せないことも多かったです。回を重ねるたびにピンに当たり、棒をコントロールしながら「あそこを狙う」「あと何点で30点？」と狙いを定める真剣な眼差しや、高得点が出たときの弾けるような笑顔がとても印象的でした。車椅子の方も楽しむことができ、周りの声援も相まってフロア全体が大きな熱気に包まれました。週に1回、通所リハビリでモルックを行っています。ご利用者・職員も一緒になって頑張っています。

今後は、モルックを通じて地域の方との交流を持てるようになっていきたいと考えています。ご利用者の皆様が「楽しんでリハビリを続けたい」と思えるような工夫を続けていきたいと思います。



大運動会開催しました

通所リハビリ
介護助手

小松 こずえ

やわらぎでは6月25日合同大運動会を開催しました。

中本施設長の開会のあいさつ、そして「運動会の騎馬戦では、いつも馬でした」の言葉とともに開幕しました。

開催するにあたり事前に幾度となく打ち合わせと準備を重ね「いざ本番」です！が…スピーカーの電源コードの長さが足りず延長コードを探す。さらにマイクの準備を忘れ保管場所に取りに走る。さらにさらに競技直前に競技用の小道具が無い事に気が付き取りに走る。と、ポンコツぶりを最大限に披露してしまいました。それでも「楽しい」と言ってくれる人生の大先輩の笑顔に励まされながら進行させて頂きました。

まずは「アヒル釣り」を選抜選手で競って頂きました。ゆらゆらと揺れる磁石の餌に、悪戦苦闘しつつも上手に竿を操作され、準備したアヒルを釣りつくす勢いで白熱したバトルが繰り広げられていました。釣果は各フロアとも爆釣でした。次は職員による玉入れです。こちらもセッティングに、もたつきましたが「即席チアガールズ」による応援ダンスを披露し間を持たせ(たつもり)、後に「チアガールのダンスが良かった」との感想を頂戴しましたが、その大先輩の心の広さに、なぜか冷や汗でした。

最後の競技はご利用者全員参加による「長寿の糸」です。箱に複数の穴を開けて、そこに長さがバラバラの紐を通し、順番に引き長さを競う競技です。各フロア用意した箱をもつて一人一人引いてもらうよう周りました。

日常生活ではなかなか見られないご利用者の動作や笑顔に「見られてよかった」との職員の感想から「少しはリハビリ効果があつたのでは？」

と自画自賛しつつ、来年は「騎馬戦で施設長の馬に乗るために頑張った」とリハビリに励んでくださる方が、居て下さるのではないかと期待しています。ご利用者の皆さん・スタッフの皆さんお疲れさまでした。滞りなく運動会を開催できたことに感謝します。ありがとうございました。



オシャレを楽しもう

やわらぎ栄養課 管理栄養士

楠 茉也



7月30日(木)に高知理容美容専門学校やわらぎ店が一日限定で開店しました。高知理容美容専門学校の学生さん11名がボランティアで来られ、ハンドマッサージやネイルケアをご利用者に施術してくださいました。施術中は学生さんとお話をしながら段々綺麗になっていく爪を眺めて笑顔で施術してもらっている様子が多く見受けられました。自分の手が綺麗になっていき、爪に彩りが加わると心も明るくなっていきますね。私たち職員も綺麗な手になつていくご利用者を見て、自然と明るい表情になりました。参加人数も多く、賑やかなイベントになったと感じます。参加されたご利用者からは「綺麗にしてもらえて嬉しい」「ハンドマッサージが気持ちよかった。こんなこと初めてやった。きれいになってよかった」など、沢山の嬉しいお言葉をいただきました。初めての経験だったという方も多く、とても貴重な時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか。高知理容美容専門学校の皆様、素敵な時間をありがとうございました。また来年、レベルアップしたやわらぎ店が開店でできれば良いなと思います。



マンドリンサマーコンサート

1階療養部 看護主任

森本 寛子



8月21日高知学芸中学高等学校マンドリン部の皆様によるサマーコンサートが開催されました。とても楽しいひと時を過ごすことができました。マンドリンの優しくきらびやかな音色に、会場全体が暖かいゆったりとした空気に包まれました。ご利用者の皆様も自然と笑顔になり手拍子をしたり、歌を口ずさんだりしながら楽しんでおられ、とても和やかな雰囲気でした。我々スタッフも癒しをもらったひと時でした。



入所



七夕会



夏祭り



行事



デイ



七夕会



夏祭り



クラブ活動



生花クラブ



園芸クラブ



学習クラブ



将棋クラブ



居酒屋カフェ



釣りクラブ



和食ダムツアー



季節の壁紙作り



入所フロアの壁紙作成中...
ぜひ見に来てください👏



高校生ボランティア



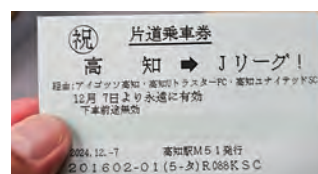
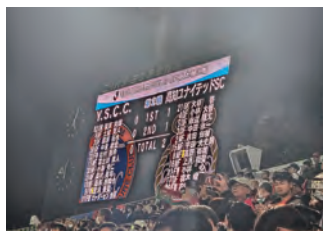
高校生の方がボランティアに来てくださり、
楽しい時間を一緒に過ごしました😊
ボランティア、見学など大歓迎です！



リゾートヒルやわらぎ
インスタグラムやっていきます！



高知ユナイテッドは、
私たち家族に勝ち負け以上
のものを与えてくれました。
同じチームを応援し、同じ瞬間に歓声を上げ、同じ悔しさを分かち合えた経験は、何年たっても色あせない今後の宝物です。特に息子は今サッカーを頑張っているので共通の話題ができ、スタジアムで応援したり、一緒に歌ったチャント（応援歌）、試合後に語り合った時間は、私たち親子をそして家族をつないでくれる大切な思い出として心に残り続けると思います。



高知ユナイテッドSCを応援する時間は、自分と家族にとって何より大切な思い出になっています。遠くは神奈川県まで「昇格がかかった試合を息子と応援に行きました。スタジアムへ行った日は、試合が始まる前の練習から息子は目を輝かせ、選手がピッチに現れるたびに大きな声で応援していました。ゴールが決まった瞬間には家族で飛び上がって喜び、負けた日には「次はきつと勝てる」と励まし合いながら帰ったことも忘れられません。

無我夢中 54

1階療養部
介護福祉士 岡崎 隆之